

第3回 (仮称) さいたま自転車総合利用計画検討懇話会 議事要旨

日時：平成26年11月17日(月) 14:00～16:00

場所：さいたま市大宮区役所 301会議室

【自転車まちづくり大綱(素案)について】

委員 7ページで自転車保険が1か月あたり2,000円とあるが、少し高いのではないかと感じる。年間5,000円くらいが相場ではないか。自動車保険についても年間80,000円と仮定されているが、これらの数字について事実関係を調べた方が良い。車両代についても償却は3年と書いてあるが、年間の売買件数などをみると6年くらいで入れ替わっている。自転車産業振興協会が出している資料があるので、参考にして精査していただきたい。

事務局 改めて確認して精査する。

委員 15ページの下注部分で、自転車道の整備基準が「50km/h以上」とあるが、国交省のガイドラインでは「50km/hを超える」となっており、50km/hは入らないため精査していただきたい。

事務局 「50km/hを超える」が正しいため、表現は改める。

委員 45ページでイタルダデータを扱っているが、これはデータを個別に依頼したデータかどうかを教えてください。

事務局 イタルダデータについては、過年度さいたま市が収集したデータであり、個別にイタルダから頂いていると伺っている。

委員 3ページに表があり、クリテリウムの名称が2013年度のもので名称が古い。P47の現在の名称にするべきでは。

事務局 3ページでは当時の計画に記されたものなので、精査する。

委員 8ページで表題が産業振興という言葉になっているが、この中身は産業振興といえるレベルのものなのか。「地域経済の活性化」などにとどめるべきではないか。

事務局 「地域活性」や「買い物動向」という形で表現を柔らかくする。

委員 19ページで市内の観光施設とあるが、ウナギや盆栽は施設ではなく資源、とされている。氷川神社や埼玉スタは観光施設といっても良いかと思うが、観光資源くらいの呼び方の方がなじみ良いと思う。

事務局 ご指摘のとおり「観光資源」に修正する。

委員 47ページでクリテリウムの来場者数20万人、経済効果約30億円とあるが、来場者数と経済効果についてはいろいろ議論があった。ここでデータとして謳ってもよいかどうかについて、ご配慮いただきたい。市内外から多くの来場者があって多くの賑わいがあった、というくらいの言い方が良いのではないか。2013年度と2014年度の概要があるが、なぜ2つ記載があるのか。1つでも良いのではないか。

事務局 クリテリウムの効果については、今お伺いした内容をふまえ、表現を修正する。

委員 69ページの期待される効果で、住民にも来訪者にも便利なまちとあるが、どのようなまちかよく見えない。また自転車の放置が少なく、とあるが、将来のイメージを謳っているのだから、“自転車の放置がなく”くらい謳っても良いかと思う。

事務局 期待される効果の文言について、住民は自転車を用いている方、来訪者は鉄道でさいたま市に来てそこからコミュニティサイクル等を用いて移動する人を想定していたが、わかりにくいとのご指摘をふまえ、文章や絵でわかりやすく表現するようにしたい。放置自転車についても、同様に表現を精査する。

委員 49ページ、図2-55にフル電動自転車とあるが、これは原付ではないのか。電動アシスト自転車とは異なるのか。

事務局 スロットルをひねれば動くため、電動アシスト自転車とは異なるものである。現在最高時速を10km/hや12km/hなどに抑えた形で、発進時にふらつくことなく移動できるモビリティとして、さいたま市で実験を行っているところである。現在の日本の法律では原付扱いになり、ヘルメットやナンバープレート等が無ければ公道は走行出来ない。

事務局 注釈をいれて、表現は考慮する。

座長 子どもが乗れるものではないため、写真についても差し替えを行い、注釈の追加をお願いします。

委員 64ページや65ページの計画の将来像や目標について意見させていただく。高齢者の事故やイタルダデータで交差点の事故が多い点の記載があったが、それらに対してどうしていくのかについて、対応する部分をしっかり記載いただきたい。高齢者の死亡事故要因は7割が頭部への外傷であり、ヘルメットをつけることで若者だけでなく高齢者の死亡率を下げることができる。そうしたところまで、つなげる計画にしていきたい。また交差点事故が多いとすると、どういうルールが守られていないかが問題かと思うが、1つ目は交差点内侵入時の安全不確認や一時停止違反であり、2つ目は左側走行で侵入していないということかと思う。そうした形で、次のアクションプランでの施策の検討につなげていってほしい。

事務局 課題からのつながりに関して、今のところは、67ページの目標の成果指標で、事

故を世代別・当事者別に把握するということを受けている。それ以外についても、今度のアクションプランの検討で、しっかり課題を踏まえて、具体的な解決策を考えていきたい。

委員 64ページで「(自転車) 近距離の移動で重視する交通手段」とあるが、もう少し重みをつけることはできないか。豊橋市では「近距離の移動における最も重要な交通手段」として、序列をしっかりだしている。「大事だとみている」くらいの記載だと弱い。市の中での調整をふまえ、もう少し前向きで、重要な位置づけにできないだろうか。

事務局 事務局で検討し、表現を精査したい。

委員 まちづくりについて、最近では京都市では「世界トップレベルの自転車都市」という位置づけにしている。つくばでは「自転車の聖地」、世界を見ると、コペンハーゲンには「自転車利用者に世界一やさしい都市」、ポートランドでは「世界最高水準の自転車都市」。さいたま市は、例えば「最高水準の自転車に優しいまち」、というようにポイントを絞った表現をいただいた方が良いかと思う。

事務局 将来像にご指摘をいただいたが、人が重要であるという点と、安全・元気というキーワードでつけているところであり、その中でさらにキャッチフレーズを示していく際に、インパクトのある文言で計画促進をしていくのかどうか、という視点で検討を進めているので、本日いただいたご意見をふまえて精査する。

委員 69ページの図についても、「環境にやさしいまち」と書くのであれば、その横にデータがあるとより説得力がある。具体的な数字は前段で検討しているので、代表的な数字を入れるとより生きてくるかと思う。

事務局 効果については、数字を入れられるものと入れられないものが出てくるかと考えている。そこで入れられるもののみ入れるのか、写真などを用いて表現するのか、こちらについても精査したい。

座長 計画の将来像やキャッチフレーズについて、他の委員からはご意見あるか。

委員 将来像のキャッチフレーズについて、1～3は言いたいことがわかるが、形容詞の羅列になってしまっていてキャッチコピーとしては弱い。4～7の方が、方向性や考え方は悪くないと思うが、さいたま市としてオリジナリティを見せた方がいい。地域性、目標でもいいが、さいたま市と書いてなくても、さいたま市だとわかるような言葉が開発できるとよい。

座長 「たのしむ」という点が重視しているところがあると思うが、事務局で良い案はあるだろうか。

事務局 現在は良い言葉が出てこないというところが正直なところだが、考えていきたい。

委員 保険について調べてみたが、代理店によって金額がかなり異なる。兵庫県では県で保険を設置して、ということも検討されており、是非さいたま市で取り組んでいただきたい。加入者が多くなると価格も下げられるので、簡易に入れて安い保険、賠償は1億円くらい、というものを考えていただきたい。

事務局 先ほどタウンミーティングをご紹介したが、10区全てで市民の方に市長とお話しいただいた。その参加者からも保険について意見が出た。保険について案内であれば市でもできるかと考えているが、これまで行政として深く考えていなかったところもあり、考えていかなければならないと感じている。

委員 スポーツレクリエーション保険をかけてみたが、下りるものと下りないものがあり使いにくい。トレーニングで事故があった時にもおりなかった。市が窓口というところでそうした制度ができればよい。組合にお願いするということも考えられる。

委員 組合の方で、5社くらいの損保会社と交渉中である。TSマーク※についても、保証金が5,000万円になっているが、なかなか普及しない。市内の一部の学校でもこれを入れようとしている。保険は誰でも入れるわけではなく、また代理店も資格がないと募集ができない。厚生労働省と話をしたが、自分の商売もあり保険協の方では普通の人には任せられない部分もあるとのこと。TSマークは自転車に付ける保険で、損保会社は人にかける保険であり、保険の内容が違うということもある。量販店でもそれぞれの量販店が保険の資格を持ち、年間3,000円くらいで入れるようにしている。高い保険では12,000～13,000円のものもあるが、3,000～5,000円が支払える相場だと思う。いろいろな損保会社と交渉中であるが、さいたま市としてやれるかどうかは、現段階でアドバイスはできないが、難しいとは思う。

※TSマーク：TRAFFIC SAFETY（交通安全）の頭文字をとったもので、自転車安全整備士が点検整備した普通自転車に貼付される。このマークには傷害保険と賠償責任保険が付く（付帯保険）。

座長 保険は重要であるため、是非アドバイスをいただきながら早急に進めていただきたい。

委員 65ページで将来像のキャッチフレーズの案①について、「自転車だけでなく～」とあるが、いきなり自転車を否定しているように感じる。自転車まちづくりの中で構想であれば、「歩行者と自転車を活かして」というニュアンスにできないだろうか。具体の案はないが、感想として言わせていただいた。

座長 引っかかる部分があるので、会議後に事務局で検討いただきたい。

委員 67ページの計画の目標で、数字はアクションプランで設定されるかと思うが、並べる順番について、利用者の割合はトップに出るべきではないかと思う。世界の自

転車計画を見ても、まずは利用者があり、その後で事故も大事なので事故の数字も
見ている、という形。そうした順番が良いかと思う。

事務局 ご指摘どおり修正する。

委員 目標値の設定は難しいところではあるが、アメリカ連邦交通省の局長に聞いたが、
自転車の目標は精緻に積み上げるものではなく、挑戦的なものとして、トップダウン
的に決めるもの、という説明を受けた。多少きついくらいの目標でも設定すれば、
それを実現するための施策検討につながる。半分にするとか3割削減するとか、目
標についてはしっかりチャレンジングな設定をしていただきたい。

事務局 今年度のアンケートで満足度の現状を確認している。利用や事故も現状の数字は確
認できているので、庁内で議論しながら、いただいたご意見をふまえて精査してい
く。

委員 満足度については、コペンハーゲンでも定点観測して毎年把握しながら進めている。
特にどこの満足度が弱っているか、たとえばマナーであればそれに向けて施策を打
つなどプログラムを組んで進めている。成果指標を設定すれば、それに向けて施策
を打っていくということを意識してほしい。

事務局 後程アンケート速報として報告させていただく。

座長 指標については21ページから示されているように、移動の目的別の交通手段の分
担率などの数字をイメージしているのか。

事務局 そちらについてはパーソントリップ調査のデータを使っており、10年に1回の数
字の把握となってしまうため、観測できるスパンが長い。したがって基本的にはア
ンケートで抑えられる数字を用いたほうが経年で数字を追えると考えている。

事務局 ご欠席の委員から指摘をいただいているので、報告させていただく。

「8ページの脂肪の減少の単位について、確認ください」とのこと。こちらについ
ては事務局で確認し、後日お知らせする。

「フル電動自転車の記載があるが、それ以外にも自転車関連技術の調査支援を行っ
ていることを入れ込んだ方が良いのではないか。また、47ページから続く『たの
しむ』の取組みとしているが、『はしる』の部分ではないか」とのご指摘をいただ
いている。

座長 とりまとめについて皆さまから色々とお意見をいただいたところではあるが、自転車
大綱に関しては今後、事務局と私でとりまとめさせていただくということによろし
いか。

～異議なし～

座長 大綱としてまとめ次第、委員の皆様にはお配りする。

【市民アンケート調査結果について】

- 委員 「まもる」のところで、自転車安全教室があり、我々も開催しているが市民の興味がなく参加者がいない。今年も大宮体育館で2回開催したが、5、6人しか来ない状況。市民が意識していないということが多いため、これをどうやって進めていくかが重要。ヘルメットを見ている、幼稚園でも半分くらいはつけていない。幼稚園の方でしっかり指導することがまだまだできていない。自転車の技術が下手で、講演のところでしっかりした技術を伝えることが重要かと思う。
- 座長 ルールを守らない利用者には不満だけれど、自分には関係ないと思っている方が多いということか。
- 委員 円グラフの数字の読み方について教えてください。
- 事務局 基となる数字が左側にあり、パーセントが右側にある。
- 委員 安全講習について、京都市役所では駐輪場の無料券を3枚配る、武蔵野市では駐輪場の合格率を5倍にする、松山市では市営のプールを無料にする、等を行っている。そうしたメリットを与える施策を考えていただきたい。
- また子育て層には、頭部外傷が死亡原因の7割であり、ヘルメットを着用することで子供でも死亡率が1割くらいに下がるといったように、具体的な数字を見せるとより印象が深いかと思う。
- 座長 教室に参加させるうまい手立てを考えていただきたい。
- 委員 我々の会社でも埼玉県のサイクルエキスポにおいてイベントを実施しており、子育て世代のお母さんたちが来られるような周知を検討している。売る方の立場からも教育は可能で、周知する方法がないかと考えているところ。保育園の入園許可証と合わせてイベント周知を行う方法も考えられるので、是非検討していただきたい。
- 委員 アンケートの10ページの問3で、自転車ルールについて知っている人の割合が高いのでびっくりした。回答した人の年齢層などがわかればよりよいかと思う。
- 座長 残りの回収票の集計と合わせて、属性別の分析等、次回をお教えいただければと思う。
- 委員 23ページで「まもる」というものが出ているが、道路上ではクルマ・自転車だけでなく、バスも含めて、いろいろな交通手段が混在している。自転車への配慮については、運転手への指導・教育を行って、バスの安全運転を重視している。バス協会でも自転車のルールを守っていただくために、啓発グッズをお子様に配布し周知徹底を行っている。自転車についても注意していただくということで実施しているので、いろいろなところで周知していただければと考えている。

委員 最後に気づいた点をお伝えすると、5ページの自転車を使わない理由として、自転車を持っていないという人が多い。このような人でもコミュニティサイクルであれば使える。また雨など天候に左右されるので使わない人も多く、この辺りをうまくやっていくということも重要な点かと思う。

【「自転車まちづくり大綱（素案）」パブリックコメントの実施について】

特になし

以上